

2016年6月17日

東京電力社長
広瀬 直己 様

日本共産党福島県議会議員団
団 長 神山 悦子
阿部裕美子
宮川えみ子
宮本しづえ
吉田 英策

東京電力第三者検証委員会報告によって明らかとなった 隠蔽体質に強く抗議する

東京電力福島第一原発事故直後、原子炉の核燃料が溶け落ちる「炉心溶融」が起きていたにもかかわらず、東電が「炉心損傷」と説明していた問題で、御社が設置した第三者検証委員会は16日、当時の清水正孝社長が「炉心溶融という言葉を使うな」と指示したとする報告書を提出した。

報告では、首相官邸から指示があったと推認されるとしているが、官邸関係者からの聞き取りはしていないなど不十分なものであり、東京電力の責任をのがれようとするものであるといわれても仕方のないものである。

この問題は、事故を過小評価する説明に企業トップが関与したことの重大性が明らかとなったことである。加えて危機管理意識の欠如と隠蔽体質が改めて問われるものである。

一連の問題について強く抗議すると同時に、以下の項目について強く要望します。

記

一、東京電力に対して炉心溶融問題について事故後五年間も「マニュアル」の存在を隠蔽してきたこと、企業トップが隠蔽を指示したことをこれまで明らかにしてこなかったことに強く抗議する。

二、東京電力として、国民の信頼を得るに足る新たな第三者委員会を専門技術者を含めた体制として立ち上げてこの問題の究明にあたること。

三、すべての情報を余すことなく開示すること。

以 上